令和６年度

河川名	地点	水素イオン濃度 PH			生物化学的酸素要求量 BOD			浮遊物質量 SS			溶存酸素量 DO		
		月	数値	年平均	月	数値	年平均	月	数値	年平均	月	数値	年平均
神田川	久保前橋（C類型）	5	7.9	8.0	5	1.0	1.9	5	3	2.5	5	9.9	10.3
		9	7.9		9	1.2		9	1		9	8.4	
		11	8.3		11	1.4		11	1		11	10.7	
		2	7.8		2	3.9		2	5		2	12.0	
	高戸橋（C類型）	5	7.3	7.3	5	1.4	2.0	5	1	1.0	5	8.9	8.4
		9	7.4		9	1.1		9	1		9	7.7	
		11	7.3		11	1.5		11	1		11	8.2	
		2	7.1		2	4.0		2	1		2	8.6	
妙正寺川	四村橋（B類型）	5	7.2	7.2	5	1.0	1.9	5	1	1.8	5	8.1	7.8
		9	7.2		9	1.0		9	1		9	7.0	
		11	7.2		11	1.3		11	1		11	8.0	
		2	7.0		2	4.4		2	4		2	8.1	

※計測値未満の数値については、計測の下限値を用いて平均値を計算しています。

【各項目の解説】

○水素イオン濃度（PH）

水の酸性、アルカリ性を示す指標。0から14の間の数値で表現されています。PHの数値が7だと中性、7から小さくなるほど酸性が強く、
7から大きくなるとアルカリ性が強いことを表しています。【環境基準】 6．5～8．5

○生物化学的酸素要求量（BOD）

微生物が水中の汚れ（有機物）を食べる（酸化分析）時に必要とされる酸素の量をもって表したものです。
値が大きくなるほど河川が汚れているということを表しています。【環境基準】 3mg／ℓ以下（B類型） 5mg／ℓ以下（C類型）

○浮遊物質量（SS）

水中に浮遊している不溶性の物質。水の濁りの原因となる。光の透過を妨げ、河底に堆積すると河底の生物にも悪影響を及ぼします。
【環境基準】 50mg／ℓ 以下（B類型） 50mg／ℓ 以下（C類型）

○溶存酸素量（DO）

水中に溶解している酸素の量です。1気圧のもとで20度の清水には約9mg/lの酸素が溶け込みます。気圧、水温などによっても数値は変動します。
また、日中、水中植物の光合成が行われるとDOは高くなります。【環境基準】 5mg／ℓ以上